

尿路悪性腫瘍

洛和会益田病院



泌尿器科部長
赤尾 利弥 氏

血尿が出たら先ず検診受けて

Q 尿路悪性腫瘍とは。
A 尿路上皮がん(腎盂がん・尿管がん・膀胱がん)、腎がん、前立腺がんが尿路悪性腫瘍です。尿路上皮がんは、尿の通り道である腎盂尿管か

ら膀胱内に発生する悪性腫瘍です。50〜70歳の男性に多く、たいてい血尿で発見されま

す。腎がんは進行しない限り症状を伴わないことも多く、人間ドックなどで偶然発見されることもあります。尿路上皮がんにはがん組織の深さにより表在性と浸潤性があり、表在性がんは摘出手術による治療で予後も良好ですが、浸潤性の場合は血管やリンパ管の流れに乗り転移を起こしやすく、予後が悪くなります。

A 治療の中心はいずれも手術療法ですが、進行度や年齢に応じて放射線療法、抗がん剤や分子標的薬などの薬物治療、QOL(生活の質)を重視する緩和医療といった対症療法を選択する場合もあります。腎がんでは、大きさにより腎摘出や腎部分切除術、また腎盂尿管がんでは腎尿管摘出術が行われ、近年では腹

そこから長い鉗子を用いて作業をします。二酸化炭素で圧力をかけながらの作業のため、開腹手術より出血が少ないなど体の負担が少なく、早い回復が期待できます。医療器具の進歩により手術成績も向上していますが、進行の程度や患部の癒着によっては、開腹手術を必要とします。

腎がんも転移を起こしている場合の予後は不良です。

Q 治療法について。
腔鏡手術が可能です。腹腔鏡手術では、5〜10mm径程度の穴を腹部に3、4カ所開けて

Q 注意点は。
A 早期発見し転移する前に対処することが大切です。血尿や排尿の異常を感じたら泌尿器科を早めに受診してください。また人間ドックなどの検診も活用してください。